

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	住宅販売会社 （総務・企画分 野）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの連休などで来客数が、3か月前に比べ増加している。競合他社の動向など受注状況は厳しいが、来客数の増加は良いことと感ぜられる。
	変わらない	スーパー（販売 企画担当）	来客数の動き	・競合店の新規出店やディスカウント販売も多くなり、今までのような特売価格でも客は減少傾向にある。3か月連続で前年割れの状況である。
		コンビニ（エリ ア担当）	販売量の動き	・例年より梅雨入りが早く、また東日本大震災の影響もあり、収入が見込めるゴールデンウィークは厳しかったが、その後は売上は回復している。しかし、たばこの売上増の部分が大きい。たばこ以外の売上は前年より4.5%減少しており、全体で3か月前より1%ほど減少している。特に飲料・アイス等は前年7%減と回復できていない。
		観光型ホテル （マーケティング 担当）	販売量の動き	・3か月前と比べて、稼働率において前年同月実績との差異がほぼ同じ状況である。前年比マイナスは変わらない。
		ゴルフ場（経営 者）	来客数の動き	・福島第一原子力発電所の事故や東日本大震災の影響による手控えが相変わらずみられる。やや好転はしているが、それほど影響は無く、変わらないとみる。
	やや悪く なっている	百貨店（営業担 当）	販売量の動き	・衣料品を中心に改装を行い前年を捉えているが、一部の売場では東日本大震災の影響で商品の入荷が薄く、計画的な推移とはいえない。
		スーパー（企画 担当）	販売量の動き	・競合の影響が大きく、来客数は既存店で前年を4%程下回っている。また、1人当たり買上点数も前年を4%程下回り、苦戦を強いられている。特に青果、水産部門の落ち込みが顕著である。
		コンビニ（経営 者）	単価の動き	・客数はほぼ前年並みだが、客単価が前年度よりも下回っている。
		コンビニ（経営 者）	お客様の様子	・商品の入荷が不安定で、客は買いたい商品が無いと他店へ行ってしまい、来客数が減少している。
		衣料品専門店 （経営者）	来客数の動き	・やはりまだ東日本大震災の影響が大きいと推測される。観光客も減少して売上が落ちたという話もよく聞く。
		その他専門店 〔書籍〕（店 長）	販売量の動き	・ここ3か月、前年をわずかながら上回っていたが今月の上旬を過ぎたところから急に落ち始めた。ゴールデンウィークが過ぎてからの買い盛り感がある。
		観光型ホテル （総支配人）	来客数の動き	・宿泊人数は3か月前比86.3%、前年比98.7%である。客単価も3か月前比75%と大幅に減少している。総売上は3か月前比73.4%、前年92.9%である。ゴールデンウィークの宿泊人数は前年を上回るも、客単価の減少で売上は5%減である。東日本大震災後、旅行マインドはまだまだ戻っていない。
通信会社（店 長）		来客数の動き	・東日本大震災以来、来客数の減少が続いている。特に外国人の来店が少なくなっている。また、冬モデルの販売が落ち着き、夏モデルの発売待ちとなっているので販売数も伸びていない。	
悪く なっている	その他専門店 〔楽器〕（経営 者）	来客数の動き	・前年と比較して売上が悪い。東日本大震災以前からの不景気感もまだある。また、ゴールデンウィークのイベントは良かったようであるが、大通りの観光客数は激減している。観光客も被災者や世間に遠慮する風潮があり、土産の購買意欲の減少につながっている。	
	その他飲食〔居 酒屋〕（経営 者）	来客数の動き	・月の前半は例年よりも10%くらい多かったが、後半から平日の来客数が例年の半分程度と急激に落ち込んでいる。	
	その他のサービ ス〔レンタ カー〕（営業担 当）	来客数の動き	・ゴールデンウィークは観光客の利用が前年並みに戻ったものの、東日本大震災の影響でその後は厳しい状況が続いており、前年比85%となっている。	
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	通信業（営業担 当）	受注量や販売量 の動き	・今月、大手企業のプロジェクトが2件スタートした。
	変わらない	窯業・土石製品 製造業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・公共工事は学校の老朽化による改築工事が主で、その他は減少している。民間は個人住宅建築が主で大型建設は減少している。

	輸送業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・各種業態からの物流に関する相談は変わらずあるが、いずれも輸送コストの削減が目的で燃料費や人件費が上がっていくなか、受注するにも収益が薄い状況である。よほどの工程減や合理化ができない限り厳しい状況は続く。	
	輸送業（代表者）	受注量や販売量の動き	・宮古地区が依然好調で、八重山地区はどちらともいえない。久米島地区は低調である。	
	会計事務所（所長）	取引先の様子	・東日本大震災後は観光業を中心に客数、単価、売上が大きく落ち込んでいる。当然、関連している飲食業、土産業にも影響が出ていると推測できる。	
	コピーサービス業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・金額面での落ち込みがあるものの、例年どおりの受注量である。	
	やや悪くなっている	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新築住宅及び、住宅リフォームの契約件数が下降気味である。
	悪くなっている	-	-	-
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	-	-	-
	変わらない	学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・例年どおり、4月ごろまでは景気の様子を見ている企業が多かったが、5月ごろに入って求人数が若干増えてきた。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（総務担当）	求人数の動き	・受注案件の全体の合計件数の前月比マイナスが続いている。
		求人情報誌製作会社（総務担当）	求人数の動き	・求人数に東日本大震災の影響が少しずつ出ているようである。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	求人数の動き	・求人企業数が減少している。4月までに決めたい企業等の採用が落ち着いたと推測される。
悪くなっている	-	-	-	